



かけはし

251号

2026年9月

ご自由にお持ちください

特集
リハビリ通信

上野賢一郎厚生労働大臣 京滋ドクターヘリを視察
転ばない家をつくろう!～骨折予防は家の中から～



作：南 久美子



上野賢一郎厚生労働大臣 京滋ドクターヘリを視察

7月27日(月)、上野賢一郎厚生労働大臣が来院され、京滋ドクターヘリの運航現場を視察されました。全国的にドクターヘリの整備士不足による運休・減便が課題となる中、厚生労働省から当院に視察の依頼があり、京滋ドクターヘリの基地病院としてお受けいたしました。三木恒治院長、平泉志保医師(救急集中治療科)らがドクターヘリをはじめとする救急医療の実態を説明し、実際の現場にご案内しました。

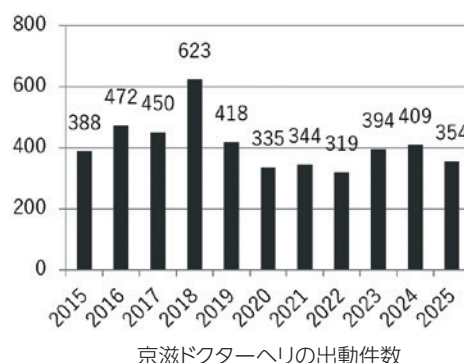
1 訪問の経緯・背景

ドクターヘリは、救急現場に医師・看護師を乗せたまま急行し、初期治療をしながら患者を搬送する仕組みとして全国に普及してきました。しかし近年、機体を整備する整備士や操縦士の担い手不足が深刻化し、運休や減便に踏み切る地域も出ています。こうした事態を受け、厚生労働省内では7月23日(木)、「救急医療搬送体制等のあり方に関する委員会」が発足し、体制の維持・強化に向けた検討が始まりました。今回の視察は、その検討の一環として、地元・滋賀県選出でもある上野大臣自らが現場の実情を確認するために行われました。



2 京滋ドクターヘリの運航状況

京滋ドクターヘリは2015年に当院に導入され、今年で12年目を迎えました。出動件数は年間300～400件にのぼり、365日欠かさず運航を続けてきました。しかし、昨年度は業界全体を悩ませる人材不足のあおりを受け、ドクターヘリを飛ばせない日もありました。今年度からは運航会社を変更し、安定的に運航できる体制の整備に努めています。要請エリアも滋賀県全域に加え、京都府南部、福井県嶺南地域、そして今年からは大阪府へも出動範囲を広げています。



3 現場視察と意見交換

当日は三木恒治院長と平泉志保医師(救急集中治療科)から、当院の救急医療体制について説明が行われました。その後、大臣は救急外来、ドクターヘリ、ドクターカー、ICU、HCUと、救急医療の現場を一つひとつ視察されました。ドクターヘリの視察では実際に機体にご搭乗いただき、現場の医師が出動から治療開始までの流れを説明しました。限られた機内のスペースでどのように救命処置を行っているのか体感していただきました。



視察の中では、救急医療の最前線で働く医師や整備士との意見交換の時間も設けられました。現場からは、ドクターヘリの安定的な運航のためには、欠員が出ても対応できる「余剰人員も含めた人材の確保」と、機体の維持にかかる「設備維持費用」の両面での支援が不可欠だとする声が上がりました。

4 記者会見

視察後の記者会見にて上野大臣は、「ドクターヘリは本格導入から25年が経過いたしました。様々な課題があると考えておりますが、人員確保が非常に大事だと改めて感じました。連絡が来て5分で飛び立ち、県内であれば20分以内に全ての地域に行ける素晴らしい仕組みではありますが、そもそも飛ばなければ、そうしたことができない訳ですから重視をして検討を深めていきたいと考えています」と述べました。



5 府県民の皆さまへ

ドクターヘリをより安全かつ円滑に運航するためには府県民の皆さまのご理解が欠かせません。滋賀県では、今回上野大臣も視察された済生会滋賀県病院の地上ヘリポートを会場に「京滋ドクターヘリ見学会」を定期的で開催しています。ヘリの機体を間近で見学できるほか、当院のフライトスタッフ(医師・看護師・操縦士・整備士)に自由に質問できる貴重な機会です。今年度の開催は残り2回となり、12月19日(土)と来年2月20日(土)を予定しています。詳細は「京滋ドクターヘリ見学会」で検索してみてください。

今後も安定した運航が続けられるよう、地域の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



リハビリ通信

転ばない家をつくろう!～骨折予防は家の中から～

リハビリテーション技術科 理学療法士 吉崎 真由美

はじめに

「家の中だから安心」と思っていませんか?転倒による骨折は、自宅で起こることが少なくありません。特に骨粗鬆症がある方は、ちょっとした転倒でも骨折につながる可能性があります。

1年以内に自宅で転倒した割合

■1度 ■何度も



60～64歳 65～69歳 70～74歳 75～79歳 80～84歳 85歳以上
〈出典〉内閣府. 平成22年度. 高齢者の住宅と生活環境に対する意識調査結果

転倒の原因

つまづく



小さな段差やものにつまづく

滑る



濡れた床やスリッパで滑る

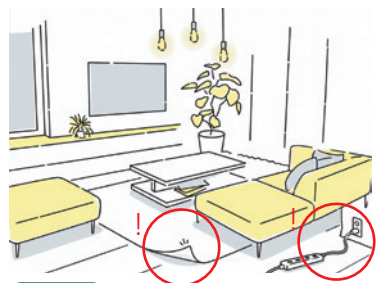
踏み外す



階段を踏み外す

家の中に潜む転倒リスクと対策

リビング



対策

- ・敷物は固定する/めくれに注意
- ・コード類はまとめる
- ・床に物を置かない

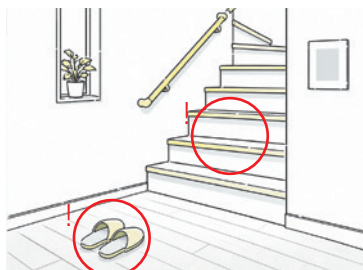
浴室



対策

- ・滑り止めマットを敷く
- ・椅子に座って洗う
- ・椅子に座って着替える

廊下・階段



対策

- ・履物を工夫する/靴下は×
- ・段差には反射テープを貼る
- ・足下の電気をつける



今日からできる「転ばない家づくり」を始めましょう!

令和8年熊本地震に災害派遣医療チーム「DMAT」を派遣

7月28日に発生した令和8年熊本地震の被災地支援のため、熊本県からの要請を受け、当院の災害派遣医療チーム「DMAT」を派遣しました。

▼8月1日～8月6日 氷川町での医療・生活支援



8月1日に三次隊として医師1名、看護師2名、調整員2名を派遣。最大震度7を観測した氷川町で活動を開始しました。倒壊家屋や地割れが各所に見られるなか、断水が続き、連日40℃に迫る酷暑という非常に厳しい環境でした。一次隊として現地に出動した奥村能城医師は「夏の震災」ならではの過酷さを痛感したと話します。

当院DMATは、八代地域保健医療福祉調整地域本部氷川支所の「福祉施設支援班」として活動、福祉施設の調査とその結果見えてきた問題点への支援を行いました。福祉施設の看護、介護職員の疲弊は蓄積してきており、活動のタイミングでは十分に人的支援を行えるほどの供給がなかったためDMATの看護師を派遣して補填、当院の看護師も派遣しました。また、物資が役場までは届いても福祉施設まで行き渡らない「ラストワンマイル問題」の解消のため調査とともに物資搬送も行いました。

そのほか、町役場からの依頼で緊急往診にも対応し、脱水症、熱中症、虫刺症の患者の診療・搬送にも協力しました。また、被災地内に残った妊婦や産後の親子が多くおり、補正が難しい、小さな子どもをつれて避難所で過ごしにくいなどの母子特有のニーズが浮かび上がりました。これを受けて氷川町は母子避難所の設置を決定し、開設準備を行い運用開始までこぎつけました。今回の活動を終え、奥村医師は「今回は現地のさまざまなニーズに柔軟に対応した。隊員たちは『被災地域のためにやれることは何でもやる』というDMATの理念を体現する活動をしてくれた」と振り返りました。

▼8月3日～8月9日 熊本県庁での後方支援



8月3日、DMATコーディネーターとして看護師2名、調整員2名を派遣。熊本県庁の福祉調整本部の運営に従事し、医療・福祉施設を対象に限られた物資の支援や人材の手配等の活動を行いました。

今回の地震では2,000を超えるあらゆる医療・福祉施設に被害が生じました。建物被害にとどまらず、診療・介護機能の低下、人員不足、水・電力等のライフラインの確保が同時に課題となりました。当院のチームは、病院支援、物資支援、搬送支援などの部門に分かれて情報収集を行い、それぞれの調整に取り組みました。水に関しては、診療に大きく影響を及ぼすため、必要量を早期に判断し、優先順位を見極めながら、自衛隊とも連携し分配調整しました。その他、状態が安定した患者を別の医療機関へ移す「後方搬送」の需要増を踏まえ、陸路及び空路における搬送体制の見直しを行いました。コーディネーターとして活動した若原聖徳看護師は「潜在的なニーズを先回りして読み取り、情報収集するとともに関係機関と連携しながら効果的なニーズ対応につなげることができた」と話しました。

今回の活動が、被災された方々の支援に少しでもつながったことを願うとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地域医療の充実を目指して―なでしこ地域医療連絡会を開催―

8月1日(土)、ホテルボストンプラザ草津にて、地域の開業医の先生方と当院の医師が一堂に会する「なでしこ地域医療連絡会」を開催しました。今回は湖南・甲賀医療圏の医師120名(当院医師含む)にご参加いただき、より良い地域医療の実現に向けて活発な意見交換が行われました。

最初に当院の診療内容紹介として腫瘍内科の松本寛史医師、腎臓内科の大澤紀之医師、患者サポート室の松村智子看護師、皮膚科の力武里菜医師、耳鼻咽喉科の永尾光医師の5名がプレゼンを行いました。その後、自由に意見交換する場が設けられ、参加された先生方からは「直接お話しする機会をいただけたことで、些細なことでも相談しやすくなった」という声をいただきました。

この連絡会を通じて、日頃から地域の医療を支えてくださっている先生方と「顔の見える」関係を築くことができました。今後も地域の先生方と連携しながら、地域医療のさらなる充実に努めてまいります。



医療職を志す高校生 23 名が病棟の看護を体験

8月5日(水)、高校生を対象にした職業体験イベント「半日看護体験」を開催しました。将来、看護師やコメディカルを志す23名の生徒が参加し、病棟での看護体験に挑みました。

はじめに、済生会の看護専門学校を卒業した先輩看護師から「看護師を目指したきっかけ」や「済生会を選んだ理由」などの話を聞きました。これから進路を考える高校生にとっては大変貴重な機会となりました。その後はグループに分かれて各病棟を見学し、看護師の指導のもと血圧測定やベッドメイキングなどの基礎的な看護を体験しました。

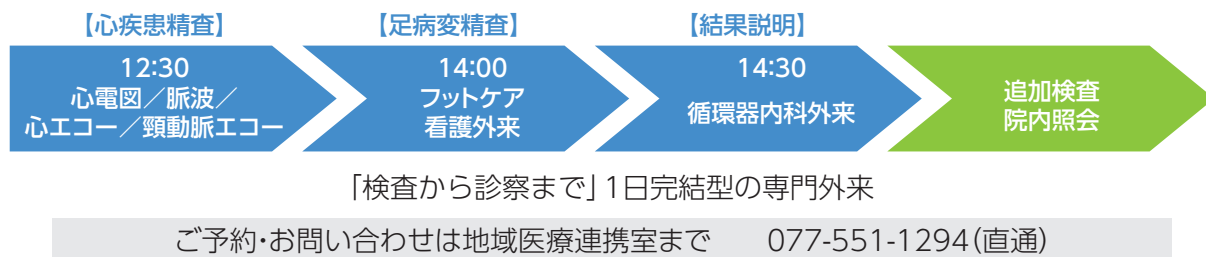
午後からは、済生会看護専門学校のオープンキャンパスも行われ、手術室やドクターヘリ、ドクターカーを見学しました。普段はなかなか触れる機会のない医療現場の裏側を間近で体感していただきました。

この体験が参加した高校生の進路選択の一助となることを願うとともに、いつの日か共に働ける日が来ることを楽しみにしています。



糖尿病でお困りの方へ「大血管病変精査外来」のご案内

糖尿病のある方は、狭心症・心筋梗塞・脳梗塞、足の動脈硬化や傷が治りにくい状態など、全身の血管の病気に注意が必要です。当院の「大血管病変精査外来」では、心臓や血管の検査を得意とする検査技師による検査、日本看護協会の認定看護師や適切なフットケア研修を受けた看護師による足の傷・しびれ・血流の確認、循環器内科専門医による診察までを1日で行います。病気の早期発見により、適切な治療や予防につなげます。受診をご希望の方は、かかりつけ医または済生会滋賀県病院の地域医療連携室へお問い合わせください。



医療体験イベント「ミッション・イン・ホスピタル」開催のお知らせ

2026年9月26日(土)、医療体験イベント「ミッション・イン・ホスピタル」を開催します!医師や看護師と一緒に、本物の医療を体験してみませんか?

- 日程 2026年9月26日(土) 10:00~12:45
- 場所 済生会滋賀県病院
- 対象 小学5年生~中学3年生(保護者同伴必須)
- 定員 30名(保護者除く)
- 備考 事前予約制、参加費無料

申込期限は9月11日(金)まで!詳細は当院ホームページをご確認ください。

お問い合わせ・お申し込み

TEL:077-552-1221(代)

担当:経営企画課(平日8:30~17:00)



▲詳細はこちら



当院では無料低額診療事業を実施しています

詳細は当院ホームページをご確認ください。



▲HPはこちら

まちの診療所紹介

～地域のかかりつけ医をご紹介します～

湖南省立 石部診療所

HPはこちら▶



診療科目：内科・小児科(小学生以上)／眼科／皮膚科(予約制)

各種健診

胃・大腸カメラ

駐車場完備

☎ 0748-77-4100

〒520-3107
湖南省立石部東五丁目3番1号



院長インタビュー 院長 茂森 昌人 先生

Q どのようなお悩みの患者さんを診ていますか？

A 発熱などの風邪症状や、糖尿病・高血圧などの生活習慣病をはじめ、幅広い内科診療に対応しております。特に消化器診療では、胃カメラ・大腸カメラ・腹部エコーによる検査体制を整えています。さらにCT検査にも対応しており、さまざまな角度から病気を評価し、消化器がんをはじめとする疾患の早期発見・早期治療に努めています。また、小児科診療では小学生以上の診察を行っております。日々の健康管理から各種健診まで、皆さまの健やかな暮らしを支える身近な存在でいたいと考えています。

Q クリニックの特徴は？

A 内科・小児科から眼科、皮膚科まで各医師が丁寧に対応いたします。また、往診も実施しており、市民の方々の日常生活に寄り添った診療をおこなっております。「困ったときにまず相談できる診療所」として、石部診療所は地域の皆さまに寄り添った医療を提供しています。

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	●	●	●	●	●	—	★
14:00~16:00 (予約制)	往診	検査 往診	往診	往診	往診	—	—
17:00~19:00	●	—	●	—	—	—	—

★…日曜診療については、ホームページ「お知らせ」よりご参照ください

※眼科・皮膚科の診察日程及び各種健診につきましては、予めホームページよりご確認ください。

主な診療内容

こんなときにご相談ください

- かぜ・発熱・のどの痛み・腹痛・頭痛
- 高血圧・糖尿病・脂質異常症・痛風
- ぜんそく・花粉症・じんましん
- 特定健診・結核健診・胃がん・大腸がん検診
- 各種診断書、各種ワクチン接種
- 胃、大腸カメラ・腹部エコー・CT 検査

病院理念

私たちは、済生会の「救療済生」の精神に基づき、安全で質の高い医療の提供と、心温まるサービスを実践し、地域の皆様の安心と幸せな未来へ貢献します。

かけはしNo.251 2026年9月

発行元 社会福祉法人 済生会滋賀県病院

〒520-3046 滋賀県栗東市大橋二丁目4番1号

TEL (077) 552-1221 (代) URL <https://www.saiseikai-shiga.jp/>